

今月は雨のため中止となりました。下見の時に観察した生き物をもとにレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回6月のてがたんは6月11日(土)で、テーマは「元気に育て！鳥のヒナ」です。ぜひご参加ください。6月1日から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は6月5日(日)です。

## 5月の観察コースと内容（下見）

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→鳥の博物館
- 観察日時と天気：2022年5月7日(土) 10:00～11:00 晴れ
- 市民スタッフ：1名（伊東茂子、石原直子、小泉伸夫）
- 博物館友の会 1名（古澤紀元） ●鳥博職員：1名（望月みずき）

## 観察した生き物の記録

### 【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：カルガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ/クイナ科：オオバン/チドリ科：コチドリ/カモメ科：コアジサシ/タカ科：トビ/キツツキ科：コゲラ/モズ科：モズ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス/ヨシキリ科：オオヨシキリ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ、アオジ 家禽や外来種：コブハクチョウ（カモ科）、ドバト（ハト科）

【昆虫】トンボ目：シオカラトンボ/バッタ目：クビキリギス、キンヒバリ/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、ヒモワタカイガラムシ/アミメカゲロウ目：ウスバカゲロウ/チョウ目：ヤマトシジミ、アオスジアゲハ、クロアゲハ、キタキチョウ、モンシロチョウ、オビカレハ/コウチュウ目：オオヒラタシデムシ、ナナホシテントウ、ナミテントウ、アカガネサルハムシ、コガタルリハムシ/ハチ目：キムネクマバチ、ハキリバチの仲間/ハエ目：ハナアブの仲間

【両生類・爬虫類】カエル目：ウシガエル、ニホンアカガエル/トカゲ目：カナヘビ

【クモ】コガネグモ、ゴミグモ、マミジロハエトリ

【カタツムリ類】ナミコギセル、ウスカワマイマイ、チャコウラナメクジ

【草の花】ナデシコ科：ツメクサ、ウシハコベ、コハコベ/キンポウゲ科：ケキツネノボタン/アブラナ科：セイヨウカラシナ/バラ科：ヘビイチゴ、オヘビイチゴ/マメ科：コメツブツメクサ、ムラサキツメクサ、スズメノエンドウ、カラスノエンドウ/カタバミ科：カタバミ、アカカタバミ、オッタチカタバミ/フウロソウ科：アメリカフウロ/アカバナ科：コマツヨイグサ/セリ科：オヤブジラミ/シソ科：トウバナ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ/ゴマノハグサ科：ムラサキサギゴケ、トキワハゼ、タチイヌノフグリ、オオイヌノフグリ/ハマウツボ科：ヤセウツボ/オオバコ科：ヘラオオバコ/キク科：ハルジオン、ハハコグサ、フタナ、オオジシバリ、ノボロギク、オニノゲシ、ノゲシ、ヒメジョオン、セイヨウタンポポ、オニタビラコ/アヤメ科：キショウブ、ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、チリアヤメ/イグサ科：クサイ/イネ科：スズメノテッポウ、コバンソウ、スズメノカタビラ、シバ

【木の花】アサ科：エノキ/モクセイ科：トウネズミモチ/メギ科：ナンテン

# 5月の観察アルバム



今回のがたんのテーマは「たよって生きる つる植物」でした。つる植物は木やフェンスなどに頼って生きていますが、その頼り方は様々です。例えば茎で巻きつくヘクソカズラ、葉の一部が巻きひげに変化して巻きつくカラスノエンドウ、茎から出る気根が吸盤状に変化して張り付くツタ、気根がひげ状に変化して張り付くキヅタ・セイヨウキヅタなど、様々な頼りかたを観察することができます。手賀沼遊歩道を散歩する時には、つる植物に注目して観察してみてください。



① ナナホシテントウの幼虫



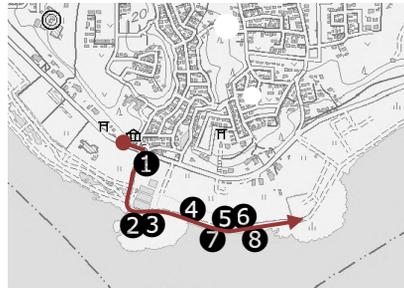
② 青々としたコバハクチョウのフン



③ ヨコツナサシガメの成虫と幼虫



④ 満開だったハリエンジュの花



歩いたルートと観察した生き物



⑤ クマバチの巣穴。ここで幼虫が育つ



⑥ アカガネサルハムシとツタの気根



⑦ ハキリバチが葉を切り取った痕跡



⑧ オビカレハの幼虫

## 今月の鳥 ムクドリ (スズメ目ムクドリ科)

ムクドリは我孫子市では一年中見られる留鳥です。雌雄でほとんど同じ見た目をしていますが、オスはメスよりも頭の黒い部分がより濃く、くちばしのオレンジ色が鮮やかなことから見分けることができます。

3月下旬から4月頃に樹洞や民家の雨戸の隙間などに巣を作り、明るい水色の卵を4~7個産みます。ムクドリでは種内托卵をすることが知られており、これはカッコウのように別種の鳥の巣に卵を産むのではなく、同じムクドリの別の巣に産みこむことを指します。種内托卵をすることでヒナの世話を他のつがいに任せられますが、托卵のタイミングによっては孵化に失敗することもあります。5月下旬から6月頃にはヒナが巣立ち、巣立ったあとしばらくの間は親から食べ物をもらう様子を観察できます。



食べ物を探しているムクドリと卵(右上)